

関連項目：教育活動プラン⑤

集団の在り方を全校児童会で話し合い、守り合う大切さを実感させる

目的

自分たちの学校生活をよりよいものにするために、自ら学校生活の諸問題に気づき、自発的・自治的に問題を解決しようとする態度を育てる。

内容

● 各クラスで話し合う。

自分たちの学校生活の向上を図るために、自らの学校生活の諸問題を自ら積極的に見だし、自発的・自治的に問題を解決しようとする。活動を通して自治的能力を、児童会活動に生かす。

生活をふり返り、困っていることや、こうした方がもっと学校生活がよくなるのではないかと、直したり新しくルールを作ったりしたらいいかなど、各クラスが学級会で話し合っただけでなく、各クラスの代表が代表委員会で提案する。また、1年間の児童会活動や自分たちが造り上げてきた学校生活を振り返り、来年度の学校作りの目標について考える。

● 代表委員会で話し合う。

学級や各委員の代表が参加し、全校児童の意思を反映させるとともに、代表者は常に全校的視野に立ち、意見を出し、話し合う。

話し合いによって各クラスから出た改善点や問題点を持ち寄り、現在どの問題を一番取り上げるべきか代表委員たちで考え、絞り込む。代表委員は3年生以上学級代表各2名、委員会代表1名、フレッシュプランナー（計画委員会）10名で構成されている。代表委員会は、この他に運動会や三郎フェスティバルのテーマを決めたり、1年生を迎える会の企画、縦割りでの遊びを考えたりする。

● 全校児童会で話し合う。

学年を超えて児童の交流を図り、相互信頼の人間関係をつくる。

議題が決定したら、一人一人が問題意識を持ち、困っていることやその時の気持ち、どうすれば解決できるか、自分の意見をワークシートに記入した上で「何でも解決三溪っ子会議」に参加する。フレッシュプランナー（児童会）が司会・進行をして、議題について問題や解決策を全校児童で話し合う。会議が終了すると、一人一人が友だちの意見を聞いたか、自分の意見を進んで言おうと手を挙げたか、自分の意見を発表できたか振り返る。今年のテーマは、「登下校の仕方、雨の日の過ごし方、廊下の歩き方」であった。



成果

どの児童にも身近に関係がある学校内で起こっている問題であり、一人一人が問題意識を持って参加するため、それぞれの学年から様々な意見が出た。「みんなの意見が交流できている。」とフレッシュプランナーの児童が感想を持った。意見を交流することにより、自分たちの問題をしっかりと把握でき、それに伴って廊下で走る児童が減ったり、登下校の態度がよくなったりした。しかし、全児童が徹底し、お互いに注意しあったりする雰囲気は現れていないため、自己指導力の育成にまでは結びついてはいない。また、代表委員会では、多種多様な問題が持ち上がっており、少数意見を取り上げることが難しい。年々児童が増加するため、発言できない児童も多い。児童たちで話し合い、決めたことを実践でき、賞賛する場を多く設けることによって、さらに今後の意欲につなげていきたい。